

コロナ禍における在宅療養支援診療所の果たす役割

洲本市・たかたクリニック 高田 裕（医師）

当クリニックは2013年4月より機能強化型在宅療養支援診療所として在宅医療に取り組んでいる。

対象患者約40名に対して、1日5～10件の訪問診療や往診を実施している。

連携型のため現在4か所診療所、1か所の病院の計5か所と連携している。

コロナ禍のため月一回の打ち合わせはオンラインで実施し、情報交換を行っている。

コロナ禍にあって、発熱外来での迅速診断、応急投薬を実施しているが、今後保健所、患者からの要請があれば在宅療養患者の経過観察を実施することになると予想される。

受入困難となった場合には、在宅酸素療法、ステロイド投与などの処置が必要となることも覚悟しておくべきであろう。

後遺症の患者への治療も行わなければならない。

今回、かかりつけ医のコロナ禍での在宅療養支援診療所として果たす役割について考察した。